

2015年(平成27年)2月17日(火曜日)

導水管で試験施工

グピスアイ管
工法洗浄内管

研究会 自治体に効果アピール

シャベット状の水で上下水道管内の汚れを除去する「アイスピグ管内洗浄工法」の普及・拡大



真。水源井戸と浄水場の3号井(富田林市甲田)と甲田浄水場蓄水井(同)の間、約50年前に敷設された径200mmの導水管で実施した。過去にスポンジを使った洗浄も実施したという。

現場では、4・4トのSISを30分で注入し、長さ140mのピグを形成した後、30分弱で240mを圧送。参加者らは水道原水の色の変化などで洗浄状況を確認した。研究会の担当者は「井戸水の汚れ成分をうまく除去できた」と話していた。同市上下水道部水道工務課の大津浩司主査は「多くの鉄・マンガン系の付着物を排出できている。導水管に適用する洗浄工法は年度内に決めることになる」と述べた。

同工法は、水と氷点降下剤(塩)で製造した特殊アイスシャベット(SIS)を上下水道管に注入し、内部に形成された長さ数十mから百数十mのピグを水流と水圧で押し流すことで管内に付着・堆積した汚れなどをこそげ取る。

スラリー状のSISの特性で、複雑な管路形状に対応。閉そくの危険性がないのに加え、水が材料なので管や人体・環境への影響が少ないのも特徴だ。作業時間が短くて済み、断水時間を短縮できる利点もある。

今回のデモ施工は、藤野興業が市に提案。水源

を目標すアイスピグ研究(社長)が行った「甲田浄水場導水管(3号井)アイスパイプ洗浄工」の試験施工を公開した。写真

研究会(大岡伸吉会長)は13日、会員の藤野興業(大野興業が市に提案。水源